

※一部非公開

平成二十三年度入学試験問題（推薦入試Ⅱ）

小論文

教育学部 学校教育教員養成課程

小・中学校教科教育コース 国語教育専修

注意事項

- 一、受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
- 二、解答は必ず解答用紙に記入すること。
- 三、解答用紙の他に、下書用紙を配付するので、取り違えないよう注意すること。
- 四、解答時間は、一二〇分である。
- 五、縦書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。
- 六、解答する際の字体は楷書とし、ていねいに書くこと。

非公開

問題

次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

非公開

非公開

非公開

(日本国語教育学会、『授業に生きる 日本の民話・世界の民話』、図書文化社、一九九六年、136
～142ページ、抜粋・一部改変)

問一 教科書に掲載された「こぶとり」と木下再話について、筆者は文体のちがいに注目しているが、それ以外に内容面でのようなちがいがあるかを挙げ、それらについて考察しなさい。(四〇〇字以上、五〇〇字以内)

問二 小学校の国語教育において民話を教材として用いることの意義について、あなたの考えを述べなさい。(四〇〇字以上、五〇〇字以内)

平成二十三年度入学試験問題（推薦入試Ⅱ）

小 論 文

教育学部 学校教育教員養成課程

小・中学校教科教育コース 国語教育専修

出題の意図

新学習指導要領において「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」として、「昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いたり、発表し合ったりすること」の指導が求められることとなった。地域で育まれてきたことば（方言）で語られる民話は、これからの国語教育を考えるうえで、大切な指導内容の一つとなるであろう。それを出題テーマとすることによって、特に問題二においては、国語に強い小学校教員をめざす覚悟とことばに対する思いの深さを、測りたい。同時に、問題一では、資料を客観的に読み取り分析する能力も求められる。なお、両問ともに、基本的な文章力が問われることは言うまでもない。

※問題文（原文）の改変について

- ① 出典文を節ごとに区切っている「1」「2」「3」…の番号を外し、代わりに「*」とした。
- ② 出典139頁の最終行に「したきりすずめ」とあるが、問題文では「こぶとり」部分のみを抜粋するので、受験生の混乱を防ぐため、これを削除した。